



3師団だより

近畿2府4県の平和と安全を担う第3師団の広報紙

師団訓練検閲

精度と速度を追求

実弾射撃能力を評価



各種行事・訓練

年始行事
師団訓練検閲
二十歳祝典行事
皇后杯第41回全国都道府県対抗
女子駅伝競走大会支援



第3師団隊員紹介コーナー

師団戦士
我が部隊の新戦力
一隅を照らす
私の大切な物



みんなの架け橋

自衛隊滋賀地方協力本部



職場の豆知識

「はずさない」

表紙写真：師団訓練検閲（第3特科隊 実射検閲）



師団司令部年始行事：師団長による年頭の辞（師団司令部庁舎前）

第3師団始動



第3師団司令部は、令和5年1月10日（火）、千僧駐屯地（兵庫県伊丹市）において新年の隊務開始に先立ち、年始行事を実施した。

師団長年頭の辞に続き、各部署の主要幹部が新年の目標を述べた後、達磨の目入れと勝ちどきを実施した。師団長は年頭の辞において「統率方針である『任務必成』『強い部隊の育成』を自分自身に言い聞かせつつ、諸官とともに強い第3師団を作れるよう精励していく」と述べた。また、師団の隷下各部隊も同様に、それぞれ年始行事を行い、第3師団の令和5年が始動した。



勝ちどきを上げる司令部幹部

隷下各部隊による訓練始め



装備品に対する御神酒
第3後方支援連隊



綱引き
第37普通科連隊



大縄跳び
第36普通科連隊



今年の抱負
第3通信大隊



集合写真 第3戦車大隊



非実射訓練
第3特科隊



ピンポン玉リレー
第3師団司令部付隊



綱引き
第3施設大隊





精度と速度を追求 実弾射撃能力を向上



射撃の全景 (火砲 1 4 門が整列)

師団は、令和5年1月下旬、東富士演習場（静岡県）において、第3特科隊（隊長 小松1佐）に対する実弾射撃検閲を実施した。

朝夕には気温が氷点下を下回る過酷な状況であっても、隊長を核心として部隊が一丸となつて、精度と速度を追求した射撃を行い、火力戦闘部隊としての任務を完遂した。

本検閲に参加した第1中隊所属の藤川 香淋（ふじかわかりん）士長は「朝と昼間の寒暖差がものすごく、厳しい環境のなか、みんなで一致団結し、気合いで乗り切りました。第1砲班の3番手として参加しましたが、砲班長の命令・企図を理解し、先のことを考えて行動しました。無事に任務を完遂できた喜びと、冬の東富士の演習を楽しめました」と感想を語った。

訓練開始式



第3師団長訓示



師団長に敬礼をする第3特科隊長



気合の入った面持ちで訓示を聞く隊員

状況開始



弾薬準備 (信管秒時の設定)



息を合わせて弾薬を装填



戦砲隊長による射撃の統制



射撃命令を受領する隊員



F D Cによる射撃諸元の算定



F Oによる射弾の観測・射撃の修正



祝 第3師団 各駐屯地の二十歳隊員を祝福



代表者挨拶 (福知山駐屯地)



戦車との綱引き (今津駐屯地)



集合写真 (姫路駐屯地)



記念植樹 (大久保駐屯地)



抱負発表 (千僧駐屯地)



第3師団の各駐屯地は、今年度二十歳となる隊員を対象に「二十歳祝典行事」を行った。

師団管内では約300名が二十歳を迎え、それぞれの駐屯地において記念植樹や戦車との綱引き等、創意を凝らしたお祝いイベントが実施された。

福知山駐屯地では、代表者挨拶において第3後方支援連隊第1普通科直接支援中隊所属の高見 藍梨(たかみ あいり)士長が「何事においても強い責任感を持つこと、二十歳になっても出られることに対して全力で楽しむことを意識しながら、自衛官としてだけ進んでいきます」と力強く決意を述べた。



出走するコースの資材準備



競技役員を乗せて大会運営を円滑に支援



車両の準備



本番前の車体の清掃・手入れ

第7普通科連隊(連隊長 前野1佐)は、皇后杯第41回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会を支援した。

参加隊員は、競技役員(輸送)の輸送、資材の運搬などを「まごころ」をもって支援し、円滑な大会運営に貢献した。

本大会支援に「指令車」の操縦手として役員輸送を行った重迫撃砲中隊所属の須藤3曹は、「選手たちが大会に集中できるように、事前の準備をしっかり行いました。沿道からの声援もあり、事前の準備にも繋がったと思うのでとてもやりがいのある仕事でした」と感想を語った。



全国女子駅伝をまごころ支援

師団戦士

「希望ある未来」



第3特科隊
3等陸曹 中岡 龍哉



今回は、第3特科隊第1中隊に所属する中岡 龍哉(なかおか りゅうや)3曹へのインタビューです。

Q 陸曹候補生課程入校年度は。

A 第138期 令和3年1月入校です。

Q 合格通知を受けた時の心境。

A 安心したと同時に、陸曹として中隊の戦力になることを改めて決意しました。

Q 陸曹教育隊入校間について

特に印象に残っている訓練は。

A 前期教育の総合訓練です。攻撃分隊長として綿密な戦闘予行を実施し、同期全員で力を合わせ、目標を奪取できたのが強く印象に残っています。

Q 特に苦労したことは。

A 班をまとめる係など、「長」になった際、班をまとめ指揮することに苦労しました。

Q 特に学んだことは。

A 指示したことをきちんとできているか、自分の目で確認するという実行の監督の大切さを学びました。

Q 陸曹になっての心境の変化は。

A 陸士と違い、これからは自分が長となり指示する場面が増え、今まで以上に責任の重さを感じるようになりました。

Q 今後の部隊での目標は。

A いつ、いかなる状況でも任務を完遂することのできる砲班長になり、中隊、部隊の戦力となることです。

Q 陸曹を目指す後輩隊員に一言

A 陸曹になるという目標を常日頃から意識し、恒常業務や訓練に励み、頑張ってください。

我が部隊の新戦力

「目指せ方面総監賞」



第36普通科連隊
陸士長 宇佐川 真之介

今回は、第36普通科連隊第5中隊に所属する宇佐川 真之介(うさがわ しんのすけ)士長へのインタビューです。

Q 入隊年度、出身地は。

A 令和3年度、鳥取県米子市出身です。

Q 入隊の動機は。

A 父が自衛官で、その姿に憧れて入隊しました。

Q 新隊員教育での思い出は。

A 新隊員後期教育の35km行進訓練を歩き切った事です。

Q 現職務(小銃手)のやりがいは。

A 日々の訓練、演習を通じて自分の地図判読能力等の戦技が目に見えて向上していることにやりがいを感じています。

Q 現職務で苦労していることは。

A 今年度配置になった新配置隊員に対し、職務に関することを分かりやすく教えることがとても難しく感じています。

Q 理想の陸曹像は。

A 分隊の1人1人を良く見て、具体的な指示ができる陸曹です。

Q 営内生活で1番楽しいことは。

A 同部屋の隊員とのコミュニケーションです。

Q 今後の目標は。

A 早く陸曹になり、自分の戦技能力を更に高めていくことです。(陸曹候補生課程に入校したら、総監賞をとります！)

Q 最後に一言

A 訓練の先に国防があるということが現実なんだなと改めて実感しています。陸曹になることを目指し、より一層の緊張感をもって訓練等に励んでいきます。

一隅を照らす

「縁の下の力持ち」



第7普通科連隊
3等陸曹 田野 貴大

今回は、第7普通科連隊第1中隊に所属する田野 貴大(たの たかひろ)3曹を紹介いたします。

田野3曹は、平成19年に入隊以来、迫撃砲小隊に所属し、砲手、迫撃砲弾薬手、平成26年に3曹昇任後、迫撃砲分隊長、迫撃砲観測陸曹等を歴任し、令和2年から車両係陸曹に上番しています。

車両係陸曹として各種結節時において、中隊の隊員に車両事故の未然防止教育を実施し、不可動車両の絶無を心掛け、各種訓練、作業を円滑にする為に日々奮闘しています。また、普段から明るく元気な隊員で、各種競技会や行事では選手として活躍するだけでなく、その大きな身体と声量で中隊の要として各種競技会優勝に大きく貢献しました。

部外活動として、主に中隊の隊員から構成される「福知山マーベラス」という社会人野球チームに所属しており、積極的に試合や練習に参加し、自衛官だけでなく民間の方々とも交流を深め、チームの主軸として活躍してくれています。

そんな田野3曹の職務だけでなく、人間関係を大事にする姿は、中隊でも若年隊員の模範となり、上司同僚からも信頼を得ており、まさに「一隅を照らす」に相応しい隊員です。

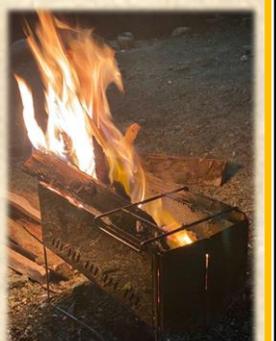


公私ともに充実♪

私の大切な物 「キャンプ道具」

第3戦車大隊本部管理中隊に所属する山中 大地(やまなか だいち)3曹が大切にしている「キャンプ道具」を紹介いたします。

世間がコロナ禍になり、人との接触が制限された時期に、何か良い趣味はないかと思い始めたのがキャンプでした。最初は道具も揃っておらず、どこか物足りないキャンプでした。しかし、徐々に道具を揃えていくとキャンプがより快適に、より楽しくできるようになり、どんどんキャンプにのめり込んでいきました。中でも一番気に入っている道具は焚き火台で、夜、辺りが暗くなり焚き火を見ながらほっこりする時間、仲間と共に焚き火を囲んでお酒を飲む時間は、言葉では表せないくらいリラックスできて癒されます。正直、そのためにキャンプをしているところがあります(笑)。今では、週末や休暇等を活用して仲間と近くのキャンプ場に行ったり、ソロキャンプを楽しんでいます。自衛官の方で、普段は演習で山に行っているのに、プライベートでも山に行くのはちょっと、、、っていう人も、仕事と趣味とではまた違ったひとときを感じることができます。また、キャンプを通じて仕事で役立つロープワークや生存自活能力も学ぶ機会がありますので、ぜひ皆さんも食わず嫌いをせず、気軽な気持ちでキャンパー仲間になってみませんか？



お気に入りの焚き火台



第3戦車大隊本部管理中隊
3等陸曹 山中 大地

自衛隊フェスタ50・70 in 滋賀高島

2府4県 みんなの架け橋

近畿2府4県に
所在する各自衛
隊地方協力本部
からの情報発信
コーナー！

滋賀県内節目の年

令和4年は滋賀県内に所在する、航空自衛隊饗庭野分屯基地が創立50周年、陸上自衛隊今津駐屯地が創立70周年を迎える節目の年になりました。

この節目にあわせ、令和4年8月7日(日)、高島市実行委員会主催による記念行事が開催されました。本会場となった今津総合運動公園では、陸空による合同パレードと装備品展示、記念セレモニー、物産展が開かれました。

ブルーインパルスがやってきた！

8月7日は朝からとても蒸し暑く、空は厚い雲に覆われていましたが、展示飛行が始まるころには快晴になりました。



青空にブルーインパルスが描くハートにくぎ付けになる来場者たち(今津総合運動公園上空)



自衛官募集中
自衛隊滋賀地方協力本部
TEL: 077-524-6446

令和5年に向けて

大津市際川に所在する、大津駐屯地外柵の看板と横断幕を、新調しました。



自衛隊滋賀地方協力本部

Japan Self Defense Forces Shiga Prefecture Provincial Cooperation Office



幕を開けました。北海道で勤務をしていた頃、美幌峠においてマイナス23度のなか、初日の出を見に行ったことが思い出されます。まつ毛まで凍りつき長時間滞在するにはそれなりに着こまなければ耐えられない環境でした。兵庫県の勤務では、「寒さも気にならず快適に過ごしています」と言いたいところですが、やはり冬はどこにいても寒いもので

しばらく厳しい寒さが続きますが、夏場に比べれば訓練において暑さによる疲労を気にすることがありません。特に防弾チョッキを着て行動するには、最適な季節と言えるかもしれませぬ。

防弾チョッキは、砲弾の破片や銃弾の被害を減少させる素材でできており、弾丸を止める効果を増すために防弾プレートを追加することがあります。万が一、着用者が射撃を受け、防弾チョッキで弾丸が止まったとしてもその凄まじいエネルギーは着用者の身体に衝撃として伝わります。控えめに言っても生身で格闘家にボディブローをされるような衝撃と言われているのです。そのため、被弾時の衝撃を緩和する緩衝材が付属している設計のものがあります。防弾チョッキを装着するにあたり、緩衝材をしっかり装着し効果を最大限に発揮できるように正しく装着することが大切です。我々の行動に求められる本質と装備品の設計上の狙いを「はずさない」ことが大切ではないでしょうか。それでは今年もよろしくお祈りします。



「はずさない」著：ジョシユア

あけましておめでとうございます。新たな一年が幕を開けました。北海道で勤務をしていた頃、美幌峠においてマイナス23度のなか、初日の出を見に行ったことが思い出されます。まつ毛まで凍りつき長時間滞在するにはそれなりに着こまなければ耐えられない環境でした。兵庫県の勤務では、「寒さも気にならず快適に過ごしています」と言いたいところですが、やはり冬はどこにいても寒いもので



職場の マx知識



第3師団ホームページでは、過去の3師団だよりや、開催予定イベントの紹介などを逐次更新しています！
Twitter (ツイッター) も更新しているので、是非遊びに来てくださいね！

【QRコード】



ホームページ



Twitter



マスク着用

ソーシャル イスタンス